

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200123		
法人名	特定非営利活動法人 ホームスイートホーム		
事業所名	グループホーム 湖の辺の道		
所在地	滋賀県彦根市新海町2237		
自己評価作成日	平成27年 8月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県季語福祉士会		
所在地	滋賀県草津市駒井沢町343番地		
訪問調査日	平成27年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

彦根の稲枝地域のはずれの琵琶湖湖畔に位置し四季折々の自然の中で心豊かに過ごして頂けるホームです。地域の人や道行く人達が常に訪問され、色々なイベントを楽しんでいただいています。また認知症であっても地域社会で生活出来るように社会資源を利用して外出支援や地域との交流も積極的に力を入れています。9人の方が心身の状況にあった日常を営むことで身体機能を回復させると考え、家庭的な雰囲気の中で職員と一緒に料理や洗濯、掃除、買物などを行い日々の中で役割を持って頂き、認知症進行防止を目標にし、自立した生活を送れるように支援しています。そしてご利用者に安心していただけるように、密接なコミュニケーションを保ち、傾聴、受容し思いやりの心を持って寄り添います。それにより要望や思いを把握・理解することで、ご利用者様の笑顔や安心に繋がるよう

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「日々穏やかに楽しく過ごして頂く」理念のもと、開設4年目を迎え、経験と実績を積まれた施設である。日常生活の中で心身の機能訓練を行う自立支援の取り組みは、ご家族、関係機関、地域からも評価が得られている。また10月からは、認知症カフェが開催予定であり、培ってきた専門知識・技術を地域に還元できる機会でもある。自然と触れ合いながら四季折々を肌で感じ、湖岸の散歩を楽しんだり、夕涼みや夕日を眺めながら、ゆったりとした時間が過ごせる環境にある。県畜産課、地域ボランティアの協力で羊2頭を飼育している。毛刈りの時期には地域の子供たちも参加し、羊の毛を使ったキーホルダー作りや、施設の畑で収穫したじゃが芋でじゃがバターを振舞うなど地域交流の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共に、「日々穏やかに楽しく過ごしていただく」という理念を職員全員が理解し、関わり活かしている。地域と共に、利用者一人一人が喜びを感じ、今までの暮らし方に近い生活ができる様努めている。	理念を大切に考え、起床時間、朝食場所、朝の過ごし方など、その人に合わせた朝食の取り方、一人一人の生活習慣を尊重したケアの実現に努めている。職員は、気づきノートや会議で対応の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とのつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方とのつながりを大切にしており、施設の行事には地域の方にもお知らせして参加して頂いたり、自治会に参加し、地域の行事にも積極的に参加して交流につなげている。地域のボランティアの方による、行事なども行っている。	地域住民居住地と離れているが、丁寧な説明や行事案内に努めてきた経過もあり、交流も増え施設理解が得られてきている、と聞き取る。近隣の託児所との交流があり、入居者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々だけでなく、面会に来られた方の質問や悩みについても、不安を和らげるお声掛けをしている。お話を聞きながら、施設での取り組みや、認知症に対する理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、委員の方との食事をホームで開催し、利用者様とも交流して頂いている。お一人お一人の事を知って頂いた上で、議題に基づき、困っている事や、委員の方からの提案などをケアに活かしている。	運営推進会議での提案から、農業の経験を活かす取り組みとして、野菜の栽培・収穫、イチゴ狩りなど、敷地内のデイサービスと協力しながら実施している。委員の中に茶道の先生がおられ、茶会を開かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	彦根市福祉課とは、情報の確保や、相談等を綿密に行っている。また、福祉課からの依頼で、介護相談員の為の講義に当施設から数名講師として派遣するなど、互いに協力関係を構築している。	市の担当者とは主に入居者の介護について相談や助言を得ている。自立支援の取り組みから、在宅復帰された方、要介護度4から3に、要介護度3から2に変化した方など、成果が評価につながった、と聞き取る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、扉の施錠はせず自由に外へ出入りが出来る環境で過ごして頂いている。できる限り、入所前の生活に近い環境で過ごして頂ける様に努めている。また、身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ」を宣言し、内部研修を行い職員の共通理解に努めている。ご家族には、安全を重視しつつ自由に過ごして頂くことを大切にしている事業所の取り組みを伝え理解を得るように努めている。行動を早目に気づき付き添うことを基本としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の話し合いや、研修などを通じて、職員一人一人が虐待について考える機会を設け、職員全員が利用者様との関わりを見つめ直し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を、ご利用される方がおられ、ご本人様と共に説明を受けるなど、施設全体で見守り、協力させて頂いている。これをきっかけに、利用者様の権利擁護について考える機会ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様とご家族様に十分時間をかけて説明を行い、納得いくまでお話をさせて頂いてから契約を行っている。契約後も、いつでも相談や、質問に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が訪問時には、最近のご様子をお伝えし、毎月「家族通信」を発行したり、電話連絡を行ったりと、密にコミュニケーションをはかっている。家族会では、ゆっくりとお話する機会であり、ご家族様・ご本人様の思いをお聞きしてケアに活かしている。	入所時、面会時、家族会などで面談の機会を作り、得た情報を基に落ち着いて過ごして頂く環境作りに活かす様にしている。裁縫の得意な人が、暖簾作りや衣服の修繕などできる力を発揮されている。独り言やつぶやきに気づく努力もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の場で、職員の意見を聞く機会を設け、その場で出た意見や提案を業務に活かしている。運営推進会議の場でも、職員のストレスについて話し合いを行った。また、ご意見提案ボックスを設け活用している。	毎月の会議や個別面談の機会もあり、意見が出しやすいようにご意見提案ボックスが設置されている。また、新人職員の思いを中堅職員がクッションとなり、管理職に伝えるようにしている。風通しの良い、言える職場、楽しい職場を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場や職員一人一人の意見を大切にし、少しでも働きやすく、やりがいを持って、業務に取り組める環境づくりに努めている。職員の努力や、実績を考慮して給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の経験、現在の立場など、力量を把握して、個人のレベルに応じた研修への参加を促し、人材育成、指導を行っている。法人全体の研修も、2カ月に1回開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬のグループホーム部会や、グループホーム協会の研修などに積極的に参加し、他事業所との意見や情報交換の場として活用し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、ご家族様と情報を共有しながら、少しでも不安が和らぐ様な声掛けをして、じっくりと話しをして関わりを持ち、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様・ご本人様との、面接の場を何度も設け、必要な情報を集め、じっくりと話し合う事で、気持ちに寄り添う様、心掛けている。また、得た情報をより良いケアにつながる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明も含め、面接時にご利用者様本人とご家族様から希望や要望等の思いを聞き、話し合いながら他のサービスについての説明や見学も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や畑の事など、利用者様から教えて頂く事も多く、利用者様それぞれに得意な事など、役割を持って頂き、協力しあう関係づくりが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「家族通信」を発行し、最近のご様子をお伝えし、生活面だけでなく、健康状態や行事など報告している。ご家族様の協力が必要な時は、その都度連絡を取り、職員とご家族様と協力してケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのご友人や、地域の方など、施設への訪問の方は多く、採れたての野菜などを届けてくださったり、一緒にお茶を楽しまれている。いつでも来て頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。また、地域の馴染みの店も利用している。	北海道から送られてきた海産物を、「住んでいた地域の人に配りたい」と希望され、職員が同行したことがある。また、店で地域の人と会い会話が弾み、そのまま施設に来られたこともあると聞き取る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の居心地の良い環境作りに努めている。座席の配置や、お住まいの方同士、気持ちよく関わりを持って頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。また、職員が利用者様同士の会話の橋渡しをしたり、積極的な声掛けで孤立しない様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、法人主催の行事や、ボランティアとしてご家族様が来てくださる機会があり、交流が継続している。退所された方の、近況をお聞きしながらお話をお聞きする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表情や言葉、動きなどから感じられる気づきを大切にしている。ご本人の意向を、職員で共有し、少しの変化を見逃さない様に職員間で連携を図っている。	一人一人のその人らしい情報を記録にまとめ3か月毎に更新している。また、新人職員に渡し情報が共有できるようにしている。希望を実現する取り組みとして、9月に2名ご家族同伴で音楽会に行く予定がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や、性格など、ご本人様との会話の中からさり気なく聞き取り、ご家族様からも、訪問時などに常に把握する様努めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースで一日を過ごして頂いている。細かな変化についても、気づきを大切に職員間で共有している。経過表には、時系列で記録し、一日の状態を詳細に把握できる様に、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見は勿論、ご家族様の意見を聞き取り、各個人の課題を常に明確にし、対応を試行している。職員間で、意見を出し合い、それぞれに応じた介護計画を作成している。	モニタリングは1回/月、急変時はその都度実施し、ご家族・職員の意見、課題を反映する様にしている。薬よりケアを重視し、主治医とも連携を密にし、薬の反応を即電話できる関係にあり、減らす努力もされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、変化については、申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。課題については、職員間で話し合い、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の急変時には、早期に受診をして、対応できる様、常にかかりつけ医に相談して指示を受けられる様に努めている。また、地域の方との交流の為、送迎を行ったりと、ご本人の気持ちを大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の訪問や、地域行事への参加など、交流を持つようにしている。また、地域のボランティアの方に、来て頂いたり、馴染みの美容室を利用されている方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の診察に、職員が付き添い、普段のご様子を伝えている。細かな変化にも連絡して指示を頂くなど、医院との信頼関係を築いている。ご家族様にも、毎月報告を行い、緊急時には電話連絡をするなど、同意も得られている。	新しい病院受診時はご家族と一緒に、かかりつけ医の定期受診は職員が同行している。緊急時はご家族に連絡し、職員が市外の病院に付き添うこともある。認知症専門病院、歯科、皮膚科、整形外科等、複数の受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が協働する事で、利用者の健康状態や受診状況等の把握が出来、お互いの情報交換で利用者が適切な看護を受け、健康管理に繋がるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、普段のご様子など、病院に情報を提供し、医療連携室とこまめに連絡を取り合っている。退院時には、話し合いの場を設けて、ご家族様の同意を得て、万全の体制で迎え入れる様に努め、病院側とも良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、家族様訪問時や、家族会等の機会に、ご家族様に十分理解を得られる様に説明を行い、グループホームで出来る事、出来ない事を明確にお伝えし、職員全体で今後取り組んで行く。	入所時に施設でできること、医療に関することは限界があることを説明しているが、医師確認書は作成していない。今のところ終末期を迎えた経験はないが、最期まで見てほしいご家族の意向もあり、前向きに取り組む必要を感じている、と聞き取る。	グループホームの年数と共に、入居者も生活年数・住まいの一員としての日々の暮らしを、重ねられている。重度化や終末期に向けた体制づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、会議の際に実践を交えた研修を行ったり、救命救急の講習に全員が参加し、落ち着いて対応できる様、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元、年に2回避難・通報・消火の訓練を行い、地域の消防団との協力体制も築いている。また、災害に備えて、食料や飲料水の備蓄を行っている。	6月の訓練時は、地域住民参加も得られサービスと合同で実施。地域の消防団とは携帯番号を教えてもらい対応可能な関係にある。地震・水害時に備え避難場所として、浜辺のホテルの協力を得ている(3日間食料確保)。避難・安全確保重視している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、お一人お一人を尊重し、個人の性格・個性・生活歴や習慣を理解して把握した上で、失礼のない対応を心掛けている。プライバシーに配慮した関わりを持つよう努めている。	入室時はノックを了し了承を得てから入り、又トイレ介助時は「失礼します」の声かけを大切にしている。入浴介助時もタオルを用いて羞恥心に配慮している。記録類は職員専用の棚を設け、他の利用者さんの目に触れないよう情報管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大きな家族の様な関わりを持ち、何でも話せる様な環境作りを心掛けている。会話や、表情などから、思いを見逃さず話を広げ、自由に過ごして頂ける様、職員が全て行うのではなく、見守りも大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に対する決まりはなく、起床や就寝もそれぞれ自由にして頂いている。食事も、ご飯やパン等好みの物を選んで頂くなど、ご本人様の意志を尊重している。利用者様の生活に合わせて、家事の手伝いや、入浴等声をかけさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ身だしなみに対するこだわりがあり、お化粧をされ、おしゃれを楽しんでおられる。季節ごとに、職員と一緒に衣替えを行い、2カ月に1回美容師さんに出張して頂いている。ボランティアの方による、エステなども体験して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りをし、利用者様と一緒に調理をしたり、盛付を行っている。調理に参加していない方も、五感で感じて頂いたり、食事前には口腔体操を行い、美味しく食べて頂ける工夫をしている。また、味付けや盛付など食欲をそそる様な工夫も心掛けている。	天候やお店で刺身をみて「食べたい」と言われた時など、その日に合わせて献立の変更もある。利用者と一緒に作ることを大切にし、野菜の下準備、盛付、洗い物などの協力も得ている。毎朝パン食の人もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を把握し、健康管理に努めている。お一人お一人に合わせて、分量や、形態等を変え、体に合った椅子等、席の配置など、食事に集中して頂けるような工夫も心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助等、ご本人様の力に合わせて、清潔保持に努めている。口腔内の汚れから病気に繋がらない様、口腔ケアの重要性を職員が理解した上で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、それぞれに合った時間に、お声をかけさせて頂いている。また、常に見直しを行い、職員同士で気づいた事を話し合い、オムツの減少に繋げている。	排泄記録からパターンを把握し、声かけのタイミングを探り対応している。昼間は布パンツ対応で快適性の支援に努めている。失禁時はさりげなく周囲に気づかれない配慮をしている。低身長者対応トイレも設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による、身体や精神状態の混乱を防ぐ為、かかりつけ医と連携して、薬の調整をしている。また、便秘解消に繋がる食材を取り入れるなども工夫も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を見ながら、基本的に全員毎日入浴して頂いている。入浴の順番も、こだわり等を考慮しながら、気持ちよく入って頂ける工夫を心掛けている。皆さん、毎日入浴する習慣がついている。	毎日午後から入浴、好みの時間帯に入浴されている。夕方希望もあり、個別に対応している。気分のタイミングと声掛けの工夫などを行い、今のところ入浴拒否はない、と聞き取る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣により、起床や就寝、午睡の時間に決まりはなく、それぞれ自由に休息されている。お部屋の照明や、布団等、快適に休んで頂ける様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の元、薬の管理を行っている。処方時に、薬の説明や副作用等、十分にやり取りを行い、気になる点は、すぐに薬剤師やかかりつけ医に相談できる体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を生かして、出来る事や性格などを把握して、役割を持って頂いている。役割を通して、楽しみや、気分転換に繋がる様に、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事ごとなど、利用者様のご希望に添える様に、外出支援に力を入れている。職員と買物やドライブだけでなく、ご家族様とも外出される機会もあり、可能な限り外部からの刺激を沢山受けて頂ける様な、支援を心掛けている。	2年前に三河温泉へ全員(9:9)で出かけたことがある。ご家族の協力を得ながら、今迄できなかったことや希望を取入れ、日帰り旅行や食事会なども実施している。食べたい時に近所のうどん屋に出かけたりしている。トイレ、休憩場所など下見もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が、買物等でも職員が付添い、事業所が立替をして、お金の管理をさせて頂いている。ご自分で管理されている方については、買物だけでなく、通販を利用されたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話での連絡を取り継いだり、手紙を出すなど、支援している。職員との関わりの中で、希望をお聞きしながら、年賀状や、暑中見舞い等、季節の挨拶を出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂ける様に、季節ごとに旬の花を生けたり、利用者様が書いた書の作品などを飾らせて頂き、穏やかに過ごして頂ける様な環境作りを心掛けている。また、廊下には普段の様子や行事の風景等の写真を飾らせて頂いている。	季節にあった壁飾りや花等がある。今月はお月見、先月は祇園祭のPATCHワーク(ボランティア作)、6月は利用者と職員のアじさいの折り紙など、と聞き取る。ソファも数か所設置され、ご家族の面会の場であったり、利用者のくつろげる空間でもある。窓からは季節の風を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室にテレビとソファを設置し、自由に思い思いの場所で過ごして頂いている。お一人でテレビを見ておられたり、気の合う利用者様同士で、お話を楽しんでおられたり、穏やかに過ごして頂ける様、家具の配置を工夫している。気候がいい日には、外のデッキで過ごして頂く事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や、使い慣れた物を置いて頂いたり、ご家族様との写真を飾って頂き、安心して過ごして頂ける環境にしている。お部屋では長年続けておられる日記を書かれる方や、信仰心の厚い方のお部屋にはご本尊が安置されている。	居室に鏡台を置く人、犬と一緒に入居し居室で柵の中で飼育入居者もおられた、と聞く。日記を書く、手紙を書く入居者には情報提供しながら書字の継続支援をしている。自身のテレビ・ラジオで歌を楽しむ人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には、手摺を設置したり、認識しやすい様に、「トイレ」の案内を表示している。台所は、対面式で、見守りしやすい様な環境である。また少しでも自立した暮らしが継続出来るように改善点を話し合い快適な生活が送れるよう支援している		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けての取組	重度化や終末期ケア対応のために医療連携をすすめる。	医療関係との連携で、重度化・終末期ケアが充実するように、職員教育、研修に努めていく。また、家族等の意向を重視した連携を大切にする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()